

准又奥堂日誌
大正三年
十月以降

特別
14
1919
562



変息布日誌

大正二年十月下旬記事

十月廿三日

吉野の足利汽車を見方坂に歩み回者
沿方舎に宿を留る色燈又長閑
清風の柔地海辺より回車一列し如
く一睡翌朝

林四

大改と着衣家と投す徳川統制
日良直ら不始跡方と寺高其高
東より我と計ちくり前武をのふ
此地に大久保利武のり山山健三に
友男の翁本山彦一其其居る云
負八十名出家あり合衆箱
りしゆりし記の按に記合衆
あり余の師の流説をあり
西川義義のまの師ありと其義
と心説あり師也と記ありと推し
流す北日明元

東橋屋製

井上日

此、文の根元の事集集、河崎敬
花、高流、尤の形をを支底と物と
勝ひ天と寺の分佈と計き、其の
引流き、回寺級、大会の流すを
画き、此を中寺り流すを流す、
の流流、何より、和智香、其の和
寺目、秋流、其の流、中寺り流すの
淨寺目、秋流、其の流、又和智
寺目、秋の流、列をを、五の、
其の、其の、其の、其の、其の、

多敷、橋の川に舟を多く見たり、政お元
 二、三、少、あとも多く、万々、舟の舟、舟、舟
 他、三、本山、産、産、と、命、地、一、四、村、時
 多、尺、外、地、店、の、筆、主、と、る、と、あ、十、数
 見、居、あ、に、列、す

井上 口 囉

明、か、北、國、寺、路、又、多、く、神、戶、地、方、に、赴
 ち、く、余、り、多、く、行、く、能、う、す、と、前、方、の、以
 前、ま、う、る、四、五、の、郵、伝、と、り、か、ま、山、崎、地
 四、中、わ、ら、あ、む、り、車、物、家、伝、に、接、す、

東橋原製

十、時、二十、五、分、強、く、行、流、車、に、投、す、雨、村
 天、四、と、四、車、一、路、磨、に、赴、ち、く、遊、説、地
 ；、他、の、向、入、と、な、り、し、一、時、半、に、上、須、磨、に
 位、及、お、師、に、到、り、北、師、海、に、面、し、満
 園、自、然、の、松、林、也、皆、枯、り、て、石、瓦、も、こ
 物、具、に、宋、清、の、意、を、設、け、各、日、樂
 書、の、一、冊、を、即、せ、備、さ、り、茶、托、と、な
 ち、備、し、心、中、同、錦、衣、と、な、り、す、其
 女、中、の、う、ち、宮、内、を、一、覽、す、内、を、亦
 院、外、を、修、大、朴、奥、床、し、と、建、築、本
 也、四、的、テ、レ、ト、由、入、洋、舎、の、鐘、を、も

受りけり、二十七日、あとも先けし、ち改
くうふ、と、徳川の徳、外、徳、四
人多く、京都、向うし、去る、余、いと
留まらば、さう、我、さう、寺、あ、十
輪通の、凡、京、徳、を、い、を、車、東
こ、か、あり、十二、徳、川、候、と、語、る

廿七

候、と、語、る、二十七日、あとも先けし、ち改
くうふ、と、徳川の徳、外、徳、四
人多く、京都、向うし、去る、余、いと
留まらば、さう、我、さう、寺、あ、十
輪通の、凡、京、徳、を、い、を、車、東
こ、か、あり、十二、徳、川、候、と、語、る

東林堂

接せし、列名を、見、守、り、徳、中、こ、り、多、し
去つて、府、主、回、り、寺、徳、と、徳、川、伊、高、家、の
責、者、を、各、手、遊、外、徳、こ、今、貝、の
海、列、を、一、改、し、十二、徳、川、候、と、語、る
こ、り、多、し、徳、川、の、徳、を、い、を、車、東
こ、か、あり、十二、徳、川、候、と、語、る
一、天、ら、し、東、林、堂、み、打、さ、し、三、條、堂、美
萬、年、間、一、幅、を、贈、り、下、村、と、根
え、あ、打、回、付、以、年、新、築、の、大
丸、共、服、衣、を、一、改、し、さ、う、り、子

旧家ハ小幡谷ニ移けり別荘ニ赴
 き酒食の御宴を多けり六の辭し
 七徳川候訪御波文方ニ赴出
 く今秋四人如由新打井大田
 湯候と世ニ候し晩おの響
 を受け十の節親睦せん之の
 今秋終家に宿す

井ノ口

此の地は御代新井を興快を多し
 同者御代大倉屋の節從りて

リシヨリ今も川をの下村の節あり
 のり今も小幡谷の別荘に閑長月
 伯と此地に御代のことと決し、
 車宗
 忠く其旨とるも又去月久須美
 にも傍多けり今も今も今も
 此の地を今も、京都を今も
 名なりと今も、京都を今も
 又打ち今も、前田彦の閑に奉
 次十の京都を今も十一の今も
 うつ、今も今も、今も今も
 今も伯の今も今も今も今も

甚の妙也。此言本如意。長條を
贈りしもの、阿部興一人。高山達三原田
約し、助舟湯吉の旨。法。七。七。七。七。
校。と。伯。詔。り。り。福。来。る。初。川
権。後。度。何。何。遠。し。助。又。来。詔。意。
接。し。あ。め。何。刻。禱。り。答。教。し。七。又。功
利。也。

井ノ口

明。々。然。然。的。三。十。七。分。七。改。を。あ。が。し。と。京
都。に。下。車。し。下。村。と。入。関。に。奉。納。り。七

逆。を。二。三。分。自。動。車。に。下。村。と。同。乗。し
馬。町。の。小。橋。谷。お。在。り。到。り。こ。こ。二。三
日。出。居。し。と。悲。寂。を。味。い。數。十。日。喧
々。の。言。を。傳。殺。さ。ん。な。る。力。を。勉。克
と。祈。り。着。後。下。村。と。入。関。と。兵。敗。后
内。政。の。事。を。聞。し。甚。謙。し。十。二。日。な。ら。ば
を。せ。し。し。下。村。去。る。り。只。獨。る。に。在
中。の。柳。林。を。既。賞。し。且。つ。去。月。来
多。岐。の。あ。め。を。く。う。高。し。な。る。復。又。奉
口。載。の。事。を。傳。續。り。入。関。し。こ。こ
時。に。二十。日。花。を。き。つ。つ。け。漸。く。春

供ち、然此下村有打自動車
本筋同付同車、東方の改路を登
りニアリ途途坂の関の懸地解ん
社下ニ幾の刻重と云つし名ある
可ぬよし入り時念をせうし下村
服衣の内政に外窓湖し十時又自
動車を三條に出そ別荘
るくさ、其物もも其方あるも又家
代に接する、其別荘に有す、天竺
寂山中に在るの思ありし

卅日

昨、と新起きも花の階上へさし満園
の楓樹も又上部を改し、おきしそ
燃くとぬき、業成所の件、二日中
唯一印と見分、會ひ、つとを托す、
十の下の自動車を、とて、西本列
寺書、畫骨畫の、五五五列を
同寺に別と見え、其、房、えん、と、え、と
りし、里、寺、院、の、宮、洞、寺、と、七、一、院
し、一、の、め、お、く、ゆ、く、り、お、い、ぬ
扱、及、井、上、次、三、ら、前、田、彦、の、お、命

一考らば、又大方、家のまへに
油部ありと記し、其の末に
又云、云々此の道、印と記す
ある、此の時を編し、又刻
村接し、伯の治了、行采の
と、終る、回轉し、又打
と、下、お、夜、の、
と、堀、池、し、七、お、夜、の、

東橋屋製

明、新市、天長、系、
寺、状、刊、布、
中、堂、一、
左、右、
林、寺、
月、輪、
寺、也、
と、
井、也、
清、不、寺、

の形跡を辨し法宗寺内西の月
世々念の明るを切のそく
午後八時を以て始事とせし
ふ三浦村ありを切あり二三
又云々の印一顆を切あり
南を三境、夕刻に村一あり
明、彫刻家、柔腕油を切あり
法論あり、大改、念ありし
辨し件、片、念のあり来る。

東林寺

○十一月

一日

明、彫刻家、柔腕油を切ありし
村谷村と念ありし、村家、
村ありし、お、法、ありし、
起し、下村、辛、理、の、
人と、ありし、在、ありし、
と、ありし、ありし、ありし、
都、ありし、ありし、ありし、
ありし、ありし、ありし、
ありし、ありし、ありし、

十数枚書きつけ、又物之多い死に
喰ひ市中を散策し、一二日骨董
を海小橋の英電、寺と興子

二日

時、延本に郡侯夫人を校前田多野
御守電、古位とある、九時停車場
二伯一行を仰、一り、加の、板山脚
路を参拜し、電車より大改天湯、
着直と花家、おす、物電、漁、中
希望と守都を林、昔らと、或、古、あ

東
橋
屋
製

リ、午後お宿、於て早稲田大子
之儀の講演あり、終つて伯と自動
車、同日乗市官中、の概、三、先、
伯の講演あり、夕刻、大改天、
寺、改、表、招、合、を、あ、く、ま、り、
る、数、十、人、洋、文、の、書、長、田、中、行、
すと、流、り、大、改、し、身、会、の、学、校、回、
人、大、隈、任、者、皇、子、馬、洗、田、中、橋、心、
物、境、民、品、中、村、京、し、地、改、本、
三、印、芽、外、の、字、本、余、の、終、り、
折、込、会、の、式、服、を、着、用、す、

社を中村操くも物を貯る又中
村伊三郎より物を貯る

三〇

町と乳を日有物二個取置く出す
い物お仕立の電車を之難波へ寄
る又物お電車を兼橋大和川
渡り院(保羅園)の崩院式に
お大久保の寺七田の十の由余
の法生原に依り支度にて宗
記念撮影を年々古年会館の

東洋製

物人奉持会と物人伯の滝渡り
千後とし伯の物人伯の社に
二の古物に物人伯の滝渡り
四の物人伯の物人伯の社に
物人伯の物人伯の社に
二の物人伯の物人伯の社に
物人伯の物人伯の社に
物人伯の物人伯の社に
物人伯の物人伯の社に

四〇

町と乳大改ともがり
えり天満

小助四丁目井多嘉代花子也のボイラ
しを伯と世と別り見え梅田候在車坊
に梅を伯の野馬角に附す多浪候
あり九町十二分三山、向けり
す例の如く梅に記着新御堂
交に車中へ入す事ありぬ二町
十八分三山着直に宇の候
乗換四の宇の候法に着直なる
汽船に換し五の二十分高梅
着梅す伯と世と別り梅田候
と云けり梅す家に入すは梅香川

東橋屋製

毎官成り力あると世と伯の御堂を交
く、多の風氣をも是、下めす梅の
東と世と伯と別り梅田候
云長田中梅候多なる梅田中村泰
し梅田本三郎等梅田候と物乘、
田中梅田九町、先と今と梅田
昌史梅田候の梅田候に入る大
梅田候も梅田候と梅田候
梅田候と梅田候
此の梅田候梅田候と梅田候
梅田候と梅田候

のいふ子麻子木ハ五ノ七なる也
福田に在る也

五

所々乳の十分師の記の扱に於て
高松去年の國体並特等にて此を
伯の海濱ありたの十分栗林の
と於て各程中子能なるも亦
年々此敷と云ふ二千の大衆に
し伯の海濱あり終るに於て國內と
散来し國內揃月亭に於て市

東洋製

よき午の御を五七三三けり一
の高専めを扱に於て婦人大会と
又二時より三時於て佛の
去年今に於て伯の海濱ありし
引つてきた式に扱に於て伯の海
濱にありし物なり新中野の
七校友会ありし何れも盛況
漆工の飾とありし二三の物
ふ

六

明威月無む、と乾日、め、こ十分、
此果座を、柱を、高、あ、人、と、城、所、之、但、の
物、の、海、深、な、ま、う、後、う、と、と、橋、の、か、電
車、と、一、の、外、折、ち、り、ん、危、険、の、見、お
こ、牛、島、山、ち、し、し、余、芽、か、つ、の、死、を
登山、今、う、ち、あ、ま、こ、ち、う、し、の、深、お
記念、し、し、も、送、け、し、る、大、運、物、の、
柱、を、木、の、中、に、ち、り、ん、國、七、七、葉、の、
大、衆、集、ま、る、を、後、子、伯、の、危、険、
を、説、く、昔、と、し、威、城、の、深、深、の、
山、上、こ、こ、の、お、ら、の、上、下、山、ま、大、衆、山

東林同製

下、こ、ち、り、ん、坂、の、端、も、葉、を、
山、を、叫、び、壯、快、と、後、を、書、を、あ、る、
ゆ、あ、る、故、を、て、公、人、ら、あ、る、に、於、て、故、を、
念、後、集、ま、る、に、後、子、伯、の、海、深、を、
つ、つ、と、城、内、に、つ、あ、る、も、る、各、種、國
体、の、大、衆、ら、を、集、ま、る、の、的、を、
於、て、こ、こ、と、し、四、中、の、中、に、
あ、る、事、を、接、し、て、廣、く、校、を、
い、し、し、あ、る、事、を、接、し、て、
移、す、家、を、地、を、古、書、を、
観、る

雨ふぬが汽車うし伯父物松吉伯
友姉と共こ現多まこ向けし書きた、
此より里二めりるをて送す、翌日ま
こ送す、既雨濁く急し也年毎
らきりる表及らきり送あし伯
こ地ふ松梅樹共其の分及相
めし作也社務不こ入り伯の清
流あるこ千分のの由合を今まけ
春の禊とて解し去る由路為
今ぞ古し、由送善也寺に

東洋風

車し借行社に於て三千名のち
年固に對する伯の清流あるこ又
車上り多分付に於て所民の
親也あるこ二時丸電と下車し
停車場附也地と於て今市立
園は之伯の親也今と信多伯の清
流あるこ又車上り交る坂出
こ下車しを去り伯のち年固に
親し伯の清流ある終るも御田結
ちり方とまをり其の園を一覽
しとめさし其松と樹る、と秋前

三十分泊りて船付高松をぬかす
船海上未だ十時五十分迄は着
物中泊りて五内着て中を過り
事三、ち船行着、塔岸をぬかす
七物系泊りて船あり余一人也十二の
三山着り河もさく九時行て多急り
汽車に投す

八日

町上車寝室に入て高松をぬかし一
とぬく干の一時也一睡九時迄

東海道

うくホーイの起りてあき起き
るに早や馬関に山し洗面の
暇もさく朝お宮を満す九時十五
分下ノ関に着て夫多船の乗入を
迎くる直に山陽末元に入ら山
も福有府に集るる三午の
山陽末元、船の海流ある終つて
七時迄汽船を馬関をぬかす此の
港湾海流と四圍山をめぐらし
夫列の要集也凡り事をすらすら

早く門司を過ぎし九州織屋に乗
る福をみよとたかすもあふ糸の民
こころを以て申おとをさうに畑をこ
くんと忠誠士の園内入る枝先
の傍の市屋連一坊を忠誠のあ
めおと後けたりこころを園とを美
又西停車場坊田踏る盛んさうと
さうの屋敷し、お屋停車場附近の
所謂筑豊炭の産する所、遠く筑
川をこき、香椎驛に列り退くは
香椎書を稱し、種大子子の前をこ

東素
百景

き多と屋敷を海をのり、崎をこ
く北を松林一帯の海濱を凡そ
絶自前もさう坊多とをさう列り
多数の人物と動かし、或んと石橋
に自あさす、坊多と改りお城とを
所あるも元寇の役坊多と一町敷
のら決まるところ我兵にお城下
お戦うところ、塹壘のたまたまのあ
り、行くく天祥山をゆりみ二日市
をさう大、宇府を電車をえ、二十分
間列りゆき、筑豊の平原

山嶽樹木氣味南面の秋ありし意
外に九阿の山形を扱あるも満中
檀(ハセ)のおもふをるる田代驛
乘換る多路の又多う人プ
オームに於て、偶に口述け
のあつても、流前比習も
同車中、又去る向車中、
曲を流せしむる旅中の一
軍と稱する体あり、
みまこいする汽車を乗換
り向と歎也、

東海道

時と向の無領地を殊に大衆
中)この時、半休、市に着、
場を築き、人購の河を通り
古賀、其、六衛氏方に、
市内の市、家、向の、
なる家、是、九、
を、あ、あ、
途、向、
唯、

九日

而、又物々ある物一行の列を外んし、自ら
由行動をあり、先づ市内を遊覧城
地を幼い、おぼろげな体たりのたし、死し
つる人の碑と幼い十の道に流るる
情をよき、おぼろげな体たりのたし、死し
陰支度、三王安記、上層と幼い、死し
ゆをよき、おぼろげな体たりのたし、死し
宿願の廟と轉し、更なるおぼろげな体たりのたし、死し
社を幼い、おぼろげな体たりのたし、死し
西分國の杉林を、更なるおぼろげな体たりのたし、死し
流るるも、二の市と列、下車中、と井井

一の物々、向ち、おぼろげな体たりのたし、死し
車、二の市と列、下車中、と井井
入と下車し、おぼろげな体たりのたし、死し
寺を、おぼろげな体たりのたし、死し
後、おぼろげな体たりのたし、死し
別、おぼろげな体たりのたし、死し
仲、おぼろげな体たりのたし、死し
細、おぼろげな体たりのたし、死し
おぼろげな体たりのたし、死し
おぼろげな体たりのたし、死し

廟を祀り境内を大木多し人をも
山家方の成り地とさし置けり十餘年
前橋の四郎純徳の異名に傳り也
年漸く徳齋回廊を拾ひ七終
毫を施してあり公の由を散策
下雨ホツク降りり又そりんと
立ぬ五十分の汽車に投し出か
れし更んとて言安草二の市川
辺の漫る坊主の如き一泊とす
免しじまきり即ちせり大木とす
家：校長、中子の信もまきを

東橋川製

おろすくもかき

十日

いふと此典の者十分ある事と判る
二の市の汽車に上り九の作がく物
の在る都方の事あり打夜の事あり
事者あり朝信源多事同言録子
自録法式に依り附き二の市の法
字あり安草内状に接する事あり
系神祀境内に神史候朝信源系
式あり信地有り十時式とす如し

次雨降り出がち隈伝巻久吉とて馬
既流し既ありし況を錦原左の挨拶
ありしむらり他の既錦ありし正午
一先づ既ありしとて(開成候の朝伝
に附寄しして左に物起しとて古川松
根の朝伝除幕も式守より行ふに
し)午後三の回寄錦一毎錦式に伝
て錦時候の式錦と出し大隈前
市氏と式志しとて漸錦ありし
徳川四右衛門伝其式に祝錦も
代流しとて既錦伝志設根松久吉

東林堂

しと楊柳をそと根も、余一回を代
表しとて一休の庵を流し既とあり

十一日

時、ありし物方隈の家のため物とて
ありしとて、既印文甲より講流しあり
法と既人より、此一本に都も本方
ありしとて、是れも本方とて早稲の
ありしとて、物とてありしとて、物
とて物とて、深の深も本方とて物
物とて物とて、田中とて、物とて物と

修を、き、教を、知人、か、ま、道、伯、の、
 威、持、本、氏、の、功、主、と、稱、さ、る、り、
 正、寺、に、於、て、校、反、を、促、の、海、濱、
 乞、方、に、任、職、を、し、刊、行、の、後、三、
 卷、を、早、大、因、寺、に、納、め、寄、館、と、す、
 く、此、者、韓、侯、と、の、石、物、類、也、且、茶、
 坊、瑞、川、の、自、筆、と、係、る、故、と、す、
 閑、と、傳、子、祿、也、お、奉、尾、に、刊、也、
 庭、に、と、ら、ん、る、宋、文、公、の、字、の、別、
 書、也、質、朴、の、書、道、公、の、為、人、と、志、
 又、り、と、し、又、刊、を、し、揚、州、に、

東林堂

九、
 休、如、書、の、校、反、を、か、る、を、い、と、ら、あ、く、あ、ぬ、の、
 休、如、書、の、力、を、失、く、何、校、反、と、い、し、
 乙、と、い、し、甲、と、い、し、名、伯、と、不、校、知、す、の、誤、
 説、を、し、或、は、低、級、を、説、と、い、し、
 皆、早、く、刊、し、去、る、坊、に、は、錫、吟、論、
 漢、書、の、傳、刊、本、一、冊、と、稱、の、を、校、
 する、に、も、何、の、校、反、を、用、い、ぬ、し、ゆ、に、
 し、四、の、本、の、り、に、は、何、れ、も、所、あ、
 り、

十二日

物所より、新白多岐を登り、上り行く余之
津乃、休勞と解し、二十の十分を以
て、出立なり、多岐を以て、其意して
田一嶽を果さんとす、也、車中四五の
校あり、今も、此の山、里、東、初、對、面
の、寺、と、名、取、と、感、ず、武、旌、の、山、の
氣、後、より、想、存、る、武、旌、驛、路、人、心
を、略、似、五、家、部、馬、河、と、以、て、七、し、如
く、最、七、子、を、意、を、以、て、七、し、但、に、初、探
の、太、比、大、を、さ、る、を、憾、々、と、す、る、身、三
間、改、を、さ、り、上、及、田、を、死、地、と、名、取、

東
林
屋
學

任也十二の及、田驛とて、こく伊萬、已
行と、元、より、乗、務、中、也、此地、内、無
を、以、て、名、取、り、ゆ、ゆ、り、長、河、の、多、岐
り、此地、ゆ、ゆ、と、合、する、長、也、三、河、の
を、こ、き、早、岐、と、名、取、り、二、九、と、大
多、岐、と、三、の、り、段、の、行、程、半、段
三十八、哩、ハ、大、村、湾、沿、岸、に、爲、し、車
道、と、し、ゆ、ゆ、と、風、光、絶、佳、也、
入、り、て、山、を、登、り、ゆ、ゆ、と、上、り、て、
南、山、嶽、川、棚、と、名、取、り、松、原、の、地
驛、と、名、取、り、大、村、疎、早、長、と、以、て、こ、

大州にきてし道より北宮 澄江多
く湾内の凡光千態着化悲々々七
崎ぬ才一の徳地をえん二四五十分
七ぬる春、平田ぬし四松正春一
七川言六の校友にゆてえぬ松正
信し投す着信はり七こそ松正
香のあちぬて市中と教業し
先づ出崎を元支那町をさき山
とのをきし出物寺真一松寺甘茅の
古刹を訪ひ又刻松正をせよ 未成
とそふ新亭く入り松をさき酒

東林寺

醜下物又信量とさし一松例此
家におす

十三日

陰以雨、多紅松后海松(白)の松
道りゆえ、さきと東家とあう、松正
春一枚松の考書しと松正春より
すえ人本も思ふ林元松正春其佩
盛衣味味、其元さうさう急山松
徳利何ちも松の松七、酒を松
正午松るも同件松松と出骨草

店とひやし一二の物を購ひ投
り扱えと原念ころ心と喫す
尾とやと海亭と山稱とと
名の辨此店也カ川言六
二半のぬし畑の中直法
りよりぬれ枝友の安
境の中も蜀山人坑
つれに於けるしホルトの宅地を
天湯宮の神場原刻と
を拜し境ゆふと
しーホルトの碑と元、東海氏の

東橋原製

豊碑を標と晩百
みり年市内の名石を磨
飲と得るるく而もろ
山と望らし而もろ
つ一端と豊前坊と
此迄と上り斗牛の
峨眉山と此
りへ路の多
望美山と友
即ち高野山と
作宮

寺々も貴族の古刹令は支那式
其の山宮物守具物寺聖神寺
ハカク見七取味ある隠木即の
若くは民の命款をり多く見り
うそちさうしく具あるに
耶人の正しなるよの
社をえりもえし

長崎より是神多し此や
此の廟とみるに東本寺も
法隆寺那式流るる王
の碑とするに支那の心
儀に似し

東本寺

ありはる此の傍あり
支那の儀に似し

此の儀に似し
西日とある
如くさうして

耶蘇教に
社もその
りさう
徳の氏

んるおとまぐり寺院を他とせり
とまふ法内寺町とまぐり寺河
とまふと此の政略をし出し
とまふと

料地名を家とあつてしおん
そのを料地を造らししと家
事しとあ割重と名を其の
の無垢法成法僧とあ初と心
リと木本男造のたを分其の
信ととととととととととと
とあ

東様原製

浦上さ部兵衛取行者とあ多く夜
信のレヤウをまあけたる婦人
徒とレヤウのま心胸を
の守札をうけととと

十四

不富冷集をし大の山とあ
あまゆと方浦の山集地を
坊市三りの印を分り
分り坊と高の岩坑を
グロバのり子也

祝禱の大詰内を教の家也内ぬ修出
印又奉を興しヤウを死更なる平由ぬ
く四の安あゆむを聖如寺を功お此寺
鐵心初あつて子々所寺ぬ大結あつ
と此を花あつて信木息の貴(聖)と見
又開山を、鐵心初あつ木像と稱し
貝(聖)墨三物と見え、此寺を法と
お此山海海寺阿つと別つ見え此日寺
七貴聖あつてと極通のつとて後
大勝初あつて死つてとまふ寺の標
先、特徴あつて現に保後(聖)道物の

東條屋

一、此の、方丈の聖画描款見えへはあ
あつて細別全泥の死(聖)指す外
：極樂園描く小(聖)あり、此寺の院
中より教支那人を葬りりたる墓に
あつて初めを支那式の墓と見え、而も
く是くとも又開山初あつた所、此
く見え見えの死支那式も此式西
向し、一、此の(聖)如(聖)と興致
んがめ初を生信体と見え、此(聖)も
此(聖)死の(聖)入つて(聖)墓(聖)お
と見え、一、此の(聖)と(聖)標

古くは味ありし深く立ち通に成勝し
その物も正平田と名を心と云ふは後を
こ入る午好いと出する、段の物をも
も物も一物を依て、段の物をも
都々松を河心出で流儀に七段を
段の物も味ありと云ふ、松の
一葉と物も、略々、段の、地と云ふ
文人の情きし、よと云ふ、朝野入、
と云ふ、一松の味を有する、中間也、
への、松も、松を、稀に、
今日此地も、今しも、中、大徳、
東林山

せん松宮と云ふ、一、
地の松と云ふ、
報を、
根、
二、
石、
生、
去、
十、
今、

去、
十、
今、

ハ二五六十一年の事と云ふ所の事其の事
築の形式全死を即極也此の御
帝其御能甚聖福法書入人
ハ産多法ある事と思ふ事
長崎少年流く表運に依きつて
別して日飯の政後を露毛人を記
述しある事御中一の由志を以て
リリわぬ政後を此の一大打撃
におおせり

東洋同誌

港津口を遊覧者狭小に極くの依り
あり
此地へ至る所の石は傷んで、そのと整
甲印子と云ふ材をレンガが、おん
と此地に加工する外への之んを喰ひて
その初まうとする事あるが、彼等
皆その間、その事其味を異なり
るものゆきも、二をんく、所回
るが、但し、鐵の力の石は、傷んで
を佛人と云ふ流石、此地に、皆甲
印子の事、地と云ふ、四人と云ふ

よく鑑みし妙庵都人の及み物
ありしかし二枚面庵主人の住る寺
らう

古墳の豊碑林とす余の元とす
元七雁不ろと車西氏錦川氏元
入次と皆色河の碑也あめり色河
の家へ所へ来りて志あめりし

いしホルリの塔は地を外へと家
ありと美し物お邦人といつて過
りし位とるん宅址と志と處と
属した位と志と美しと志と竹林と

東橋日記

リ位と元千位との二三村を
と名礎石に物ありの文を刻し
述し所の遺址を表す

長崎の貴薬師寺と隠元木庵
即ち兼に其阿彌をまつ母祖と
す。とありし故に隠元木庵の寺
と之偏新に聯して高しとる隠
木即政味と湯道としては松南
の地

長崎の割置一石也此寺の宗心也
其名多ありし而して世々の法持

此物多解を授くは人桑院味
 とありて申と云長延程のし高紙
 裝飾意匠を觀して是きもの多し
 度寸數を乞て石七状と一とを
 床柱に皮のきこの大なる梅杖を用
 ひて事なるに案下其四竹を面
 白く用ひたるもすし其處の一隅と
 長方形に低き欄を設けて劃し
 たり一二丈也一處なるも桑式に
 多し似集を統し然るるところに
 し

棟梁原製

此言杉玉の巾下木の多し人等を柱に
 丸山十五尺と云ふ梅に對して互い入
 隙あり九尺の切居又柱中の一丈也

十五

杉玉少ありと云ふ高五尺の杉起床に
 對して出方より柱束七の二十二合の
 汽舟の上に七の板及川字六枚を敷
 一外二三名備とありていふるもの
 同乗大村渡とありて十のこ上り
 四の下車一寒驛車とありて皆徒歩

しこの日の旅行香草社を沿川方と判
り市中均等を踏め四十の七八を占
む。山車動業の地に盛んさるる志之
ふしこの日を以てして七曲遊覧の
行程を終る。早つは早るゆゑに付お
を告ぐるもさうと泊一河出るもさう
趣々々余を告ぐる社とのあるゆゑ
先を告げ改列休を一説し又志を告
る。意の約十三四、又物名他二三能杖
料草を一説し、又四意の況草を
告ぐる。直る別を告げ十二時三十二

東橋原製

分車ありて直る。この汽車にさう、文初
別方と一泊船を遊る。由海を遊
那月、着り孫をさうし、七草を
見し。さう改に二十餘りも宛物心切
る。さうゆつて直る。ゆきと清く、ゆ
路、河宿、森、安、を感ず。ゆし、後、森
集、一、ゆ、の、お、志、さ、あ、る、ま、合、さ、し、伯、の
長、津、に、移、け、る、状、況、を、や、さ、く、長、津、に、
と、菊、池、を、入、二、高、家、修、的、を、る、い、下
引、出、申、と、さ、う、ゆ、り、入、混、雑、を、極、め
仰、天、命、も、踏、地、踏、地、し、さ、う、か、さ、さ

く、前より経て、陸軍省に投書し
見直しし、今般脚道の、果しと當り
つ、六の三十八分門司に着直に連絡
船に移り七の馬関に着直に連絡
直道の元々、汽車に投書、余の
の如き、距離、汽車に投書(室中、車
より一、新に、龍の、より、より、四、より、
初め、より、より、より、より、より、馬
関道の地、より、より、より、より、より、
又、新、より、より、より、より、より、
ハ、より、より、より、より、より、

東橋屋製

東京の、より、より、より、より、より、
龍、より、より、より、より、より、
馬関、より、より、より、より、より、
即ち、より、より、より、より、より、
中、より、より、より、より、より、
之、より、より、より、より、より、

十七

所、姫路、より、より、より、より、より、
着、車、より、より、より、より、より、
を、より、より、より、より、より、

を多し物宅、家よりゆく心十二万家の子
が上げし着る年しりうをいあめと女は
手紙の精きい言えい後位名とありし田印と
名をい移りそをい或人と膝をい交り
りう故地ちりうく切書取りもりうく行
きよと想のくもいあまお花ゆき越むき
十二の夜に死く

十七り

小田と野原のく起り戸を推してつ中
とるん八柄をいおる年しりうをい見ん

東洋書院

あり、本在中りの真位敷十通と指
す、井に沈一りし物も早稲田アル公
波のゆき来こりし波のゆき係立
清直沈又こりし果物とゆき、心
午直のまをいとゆきの流り中の
を流る、ゆき不在中りの家ゆきと
る、明時と英志と今し再い河
毛ねりりり雨を衝しるゆき、

十七り

印七款は(七)養刀のり印送す

二十日

和、内家久寛、方とめなり。佐助、時
入し、磁土の末、角、并、浮川、今、此、心
合、方、を、出、す、半、正、之、物、ま、う、物、を、
贈、す、。 苧、木、を、沓、を、四、五、の、具、け、生、重
を、精、め、。 英、を、と、合、す、。 珠、琅、石、を、
圓、者、を、踏、ひ、。 世、を、功、め、を、相、う、さ、う、為、
合、の、花、。 う、く、。 星、を、也、。 角、の、星、城、
有、行、三、冊、上、木、出、来、記、達、を、受、

東橋屋製

く、三輪潤子、和の者、有、ま、ら、と、目、
事、あり、し、

二十一日

陰、ま、の、(子)ま、ら、。 三輪、房、の、和、田、中、路、
。 寺、と、め、なり、。 十、の、登、枝、冬、都、の、う、ち、終、
を、ん、。 大、隈、部、と、ゆ、め、の、と、泊、の、島、息、を、
云、ま、す、。 若、信、の、中、久、お、の、者、と、候、ま、す、。 四、の、
物、壯、故、り、池、を、第、十、ま、。 物、ま、今、う、西、あ、
り、

町敷徹首者暑凡ゆを乳て中如
茶湯地、大町旅の記を筆し
了、彦山を松茸の古志を高
し、来りゆる不年し、ふれを
し、このうらむ三輪洞亭来
福七の岩一身上の身を流し七落
常あり、ノ刻而所久父照白
の如く市嶽あり、を先在に
り、市嶽をさると之れを二回目と
す、

東林堂製

の所、と数もの花と出ゆ書、
集物物を記す、二輪洞亭と花
こそ町に訪ひ、よりと中物書あり
里を歩み、市大土嶽二十五身、視
たり、と、松茸の年、夫と松茸、
七の油、再び三輪を訪ひ、其書、
骨量荒干と、湯と三輪、山、
境、たう、其治と、修り、梅、山、と
流し、十一、町、在、こ、う、る、内、
久、寛、し、し、年、院、あり

二十四

明は、登枝の途や、存念妙の
のこことまな紫流のり功に争し
引返し、争我く存念を著し二
の目をまてあう紫流、洋念を高くし
まするまゆしとすら流り、一年の
あるをここにすこといと変らざる
と、宗流也と刻する。信賢の、海
堂、後念無く、戒を著し、あし
あるをまらう、一為本念のこころす
形のふれとまらし、すらす、在の、西元

東様同製

又、師を重んずるに、す天を以て以て、
る、光り業、廣主の、徳を、見るこころし

二十五

明は、まが井井三、関心、初次、本流
終と、中念、持物、こころを、指し、戒の
結果と、戒光の、り、す、す、流、三、輪
す、と、猶、又、し、ち、画、以、日、華、列、有、也
各、教、の、長、と、流、り、の、中、を、付、光
物、在、主、通、流、初、す、ら、あ、る、信、
笑、深、の、中、念、持、物、を、集、り、共、利

蓮子、初久正辰未湯、市路入ぬ
子務ありし、未者ありし、彼任平の
者、接する、内給久竟、そし又うへ
解きとれる、時給新の千回、六万
四千、時給新の千回、七万、

二七

の給、土地給の、時給新の千回、七万、
者と接する、内給久竟、そし又うへ
解きとれる、時給新の千回、六万、
四千、時給新の千回、七万、

東林同聖

会、この給、土地給の、時給新の千回、七万、
者と接する、内給久竟、そし又うへ
解きとれる、時給新の千回、六万、
四千、時給新の千回、七万、

墨、其氣を多し、と云ふ大隈を如
ゆ、其氣を早朝、其氣を多し、
リ、其氣を多し、其氣を多し、
梅、其氣を多し、其氣を多し、
あ、其氣を多し、其氣を多し、
梅、其氣を多し、其氣を多し、
末、其氣を多し、其氣を多し、
こ、其氣を多し、其氣を多し、
梅、其氣を多し、其氣を多し、
梅、其氣を多し、其氣を多し、
梅、其氣を多し、其氣を多し、

西、凍天、其氣を多し、
公、其氣を多し、其氣を多し、
多、其氣を多し、其氣を多し、
リ、其氣を多し、其氣を多し、
後、其氣を多し、其氣を多し、
又、其氣を多し、其氣を多し、
梅、其氣を多し、其氣を多し、
梅、其氣を多し、其氣を多し、
梅、其氣を多し、其氣を多し、
梅、其氣を多し、其氣を多し、

〇十二月

一日

向家法他刊の云々中四劫計盡り
件存存在十の地後、下村正太郎
知事ある等々頃和久正一伝方し
書を尋ね、東條原製 日頃のこつめを又

直に見たり、東條原製 高野の根蔵を
し、刻日在、東條原製 長崎板及川岸
六、千四百と申す、東條原製 一、東條原製
はぬと云ふ、東條原製 しおりし、東條原製
り、東條原製

二〇

和書能本江部し、東條原製 高野の根蔵を
平、東條原製 中野と申す、東條原製 高野の根蔵を
高野の根蔵を、東條原製 四月以
降、東條原製 七十、東條原製 七、東條原製 五、東條原製

中野平海の四書三經子、出陣部
海三文三、高津東海義の詩集
事所在の旨、法しと考す、正午登
枝、久須坂ある、三つと記す、此乃
四也、船通と船名、取法を以て
年二月甲子と記す、此也、手書
海、中野流、甲子と記す、此乃
御紋、率平入し、葉子、里と記す
夕刻、物在、不在、中、中、此乃
事、在、忘、干、の、考、意、を、書、し
と書す、早、中、頃、の、考、と、撰、す、此

東橋屋製

中野中野の考、就を考ふる、又、
位、市、山、流、を、考、す、其、就、を、考、す

三日

西、時、傍、山、在、在、中、野、考、す、西、雨
物、此、を、考、す、其、就、流、中、を、久、須、坂
の、事、を、考、す、其、就、二、個、記、す
み、お、考、す、中、野、村、考、す、横、野、其、考、す
らし、其、考、す、其、就、考、す、其、考、す、其、考、す
故、考、す、其、考、す、其、考、す、其、考、す
を、後、し、其、考、す、其、考、す、其、考、す
其、考、す、早、川、考、す、其、考、す、其、考、す

の件は本意も来ら、たつ四端自元
如く、観山合々の通証ある。京
都下村方へとの謝に果納候とて
後合々つら納中まうり傳中令とるに
傳入するものと云す又物を納る

四

前以て、又榎木店を扱き平入を
来、平正の師相より一圓の故河也
来ら、平入四甲旨より一圓考と四谷
船りとも二万円傳又、果納候り平

東林厚製

形引たふ、平正二十圓考より由平久
竟印利代也。又江に如平代
二十二の納り、十の登候、下村
の物故に、平代、百田中と
相譲す、平正、果納と今一平正
と共に、平正、由一平正、果納を
お合、江戸川流、平正、相傳、平正
但、平正、平正の件、記念、平正の件
を、相譲、平正の物故、平正、相傳、平正
相譲、平正、平正、平正、平正、平正
相譲、平正、平正、平正、平正、平正

川、紅縁多、中山筆流がまじり
 状あり、珠波、各々、旅考を難お、印
 謗外二三考代六回拂角、出取
 一付名、各々、小回考代十二回約
 仕拂、一回考代、十一、五、七、代
 の内十五回寄附納金納、烟二
 とう事考あり

五日

多、乾湯、固、柔、如、雪、大、江、し、と、な、つ、ま
 リ、美、事、の、り、を、し、の、み、り、の、林、抄、を、と、よ
 四五の流物を事し記せしむ、一、二、三、四、五、
 日

相事あり、腰五、お、貯、る、在、生、の、相、録
 湯、を、し、と、難、お、日、法、印、創、会、社、の
 手、段、会、に、伝、や、本、館、記、而、と、決、す、
 現、殺、ス、者、と、二、三、の、事、を、流、す、下、村
 空、ち、う、と、考、代、を、よ、か、う、小、回、付、柱、考
 一、二、三、考、代、も、又、刻、川、上、切、美
 又、六、回、砂、の、考、代、と、意、を、し、可、事、並
 々、の、難、心、と、考、代、を、思、ふ、又、刻
 形、天、又、玉、翠、其、其、考、代、を、現、出、在、の
 凡、景、快、伝、流、取、一、時、早、く
 臥、す、

明海軍海軍國軍軍艦寸許、寸
近海軍前進し方向より流示し
之より、十の表電、之より、中
可修船行をのち、接する、市
功、中、白、紅、桑、枝、夜、に、根、之、行
く、右、眼、海、力、才、院、有、と、美、ん、と
上、海、と、帝、回、回、考、船、と、軍、艦、の
回、考、船、大、会、に、臨、み、也、の、ら、の
七、時、回、生、在、り、三、輪、回、り、の、考、に
接、す

東橋原製

明日唯、三輪洲より、身、海、物、を
解、す、校、及、片、尾、康、尔、一、身、上、の、件
に、有、来、海、軍、も、小、の、揚、来、り、三、輪、の
り、物、を、始、り、三、輪、回、り、の、考、に、至
り、の、ら、の、を、出、り、す、四、又、回、り、に
平、山、本、に、良、の、海、船、を、解、す、四
輪、船、の、如、り、の、海、軍、家、家、と、し
後、考、り、三、輪、(五、分)板、本、を、也
り、考、り、真、冷、杜、の、り、の、塩、川
を、解、す、下、村、山、右、の、市、の、海、軍、

と申す事尚あり、是れ命ありと来
十日祝のり言行未久に謝絶
のり見招の状あり

六〇

頃相年事あり候、唯此處迄あり
迄文と事あり出ぬ申の事、
竹根、瀬、又、関、に、奉、納、す、事、あり、
此の三木、美八、と、治、者、を、具、す、
上、可、事、と、申、す、の、事、を、言、す、
早、申、事、あり、直、つ、時、四、谷、税、
納

東橋同製

買が、者、此、と、言、う、方、言、
三、三、と、言、う、事、あり、
と、事、を、言、う、事、あり、
と、事、を、言、う、事、あり、
三、三、と、言、う、事、あり、
と、事、を、言、う、事、あり、
と、事、を、言、う、事、あり、
と、事、を、言、う、事、あり、

九〇

頃、と、言、う、事、あり、
行、き、未、ゆ、と、言、う、事、あり、

終に言ふ、若くは田之大概如電
を投ぐ、在北、北に去る入者、
を、力を送る、本宅、均、一、家の終
境を、了る、十二、三日、迄、全部、出
来、り、運、び、い、こ、り、四、時、田、端、の、目
矢、軒、親、山、会、を、あ、く、或、月、
即、大、正、三、年、一、月、余、の、終、出、来、の
三、日、十、時、物、は、其、美、々、り、所、は、所、は、
を、終、了、す、如、此、也、新、考、を、言、す

十日

か雨、平山中を舟を振き、その月名を引
元しめ、幼きを、居、り、と、あ、り、り、付
田、水、に、釣、り、本、書、く、う、り、も、物、は、
其、中、に、あ、り、振、り、え、大、正、三、年、一、月、上
初、段、に、晚、お、の、畑、を、と、り、け、十、時、の、
在、上、あ、り、人、中、に、あ、り、海、塔、の、義
一、つ、し、年、者、あ、り、之、後、と、し、栗、山、村
一、つ、し、一、つ、し、と、い、ふ、と、言、ふ、と、言、ふ、
才、も、あ、り、と、い、ふ、と、言、ふ、と、言、ふ、と、言、ふ、
京都、大、丸、衣、負、吉、田、七、し、ち、を、
下、り、ぬ、と、い、ふ、と、言、ふ、と、言、ふ、と、言、ふ、

うとうとを謝す也村内生て終
録志きくやメニ四十一の以也

十一。

時、丁酉の切頭と森
托す、園あり及び危身す
月楊二輝あり、平山を
身丸木縁おも、あけ
出版部、社よりつみき本の
の決る本とまゐり、丸の切

東橋同製

勢而まきく二枚表り
かまの妻六、此坪分の
ふ、美わしき存商あり

十二。

和、汗居とあ、西まの
山尾と石、余あり、
印と、秋と、終る
洋のし、件と、誅決す、

と美をいふなり、少川京六のちと梅
と、瀧の吉左衛門の法に梅す。

十三

お前、めりら書くゆ、都念に竹家
ととお西地す、大観の電を竹家の
之がとらし、年古あま、十一のち
夜多ぬ所おる念、出、所法果
系、とる長海りの休がを清う、
ち、少の付あふ中お梅、所ちる
力の由、所者、函、を、と、一、境、し

神橋同製

徳米園の二方念に、ゆみと、
奇十の甘梅在

十四

明、四房梅城、在、言、と、亦、素
みと、ゆ、と、十、前、十、の、本、も、引
移、と、去、月、十、二、つ、と、在、在、三、十、日
間、と、い、も、の、修、修、禊、の、お、を、印
成、と、干、後、と、も、西、木、山、持、一、の、義、井、式
と、修、み、ゆ、中、の、修、修、中、寸、是、
ぬ、め、と、る、お、り、と、を、お、り、し、又、刻、

むらうまめと推し七四号よ山本に記
 リ書画を見三河卷に飾して之
 の、京師左田和七巻多と取古
 ありと、今秋洛交人より行ふ事

十五

朝斗実を氣満廿一の月
 雨止り北平危ありと大寺井文の
 垣今より何年迄、蓋木元是年
 功山本山抄をわつと取ると
 校書務と見え、出附部と見え

東橋屋製

集り五の四時より、祀島五十九
 四十六日消え修入を五十九日也
 及し印更と五の四時をく、と
 積方隈伝とある、北陸九
 州の記し、修入のころ十部名
 伝、名々傳とある、此は、甲
 打印より、くく、北平解山抄に
 の編本マクリとあり

十二

朝斗実を氣満廿一の月

この乾坤と現出する。慶應二年の版
二をある。總之を托し老る。高木方
とゆふ。只月を重代甲十三日拂外
豹皮ニ次輸入二十七の代を金銀
月を二飯し一言を曰はしと四のみ
山を二とつ。男物代し内六十三日
拂由。後名法華托。書を托
かえつ。其。林。か入。以。其。息。結
機。投。ある。托。う。今。物。富。里。士。元
物也。表。う。る。名。と。拜。山。の。飯。托。す
皇。乃。白。也。少。供。衣。時。代。由。名。の。次

三

十七

雪高。湯。鐵。名。裁。を。し。比。利。滿。安
所。正。史。地。記。四。冊。地。圖。二。本。抄。る。こ。の
而。費。下。し。南。田。洗。り。の。傍。考。を。托
六。の。菊。池。五。山。の。家。の。名。を。托。し。巧。山
師。考。の。詞。り。化。名。家。の。書。詞。と。買
つ。め。こ。こ。を。ま。す。其。の。價。言。さ。し。め。る
買。り。た。し。え。こ。く。す。事。念。を。ま。す
松。本。秀。金。を。托。ふ。谷。村。一。云。う

し大丸家の内結、竹海細の本
吉ありし。冬、校出版部より、
と見たり。平山本とて、海名江草子
の書と辨ふ代、まことの也。拂
後、本三印、年功あり、又山田
清心刊の云、併、年功

十

明、園子、河内、寺、
治、年功、年功、年功、
又、思、年功、平山本、
文、思、年功、平山本、

東林堂

係外二三と、
其、年功、年功、
其、年功、年功、
其、年功、年功、

十

明、年功、年功、
其、年功、年功、
其、年功、年功、
其、年功、年功、
其、年功、年功、
其、年功、年功、
其、年功、年功、

江戸橋本橋の所本橋と職人惣号
金芳の場あり又下村本村：根
元高田の所中村等と元月：
利ノ通更と元方丸家の由あり根
下

廿二の

町早瀬方根伝と幼ありおみ打も
才あり伯：大丸の内伝あり元とし又
おと元人：元としの伝ありしるを云
云し三根と幼あり元後十二の由

東橋原製

宅、平伝、元山を伝あり
善と元とし

廿三の

町より早瀬大丸の伝ありおみ
打日付所由伝と長めり伝
伝下ありお出傳あり元とし
義伝の伝と元伝しあり
伝より元井井三三伝守
元方あり伝あり元とし
印所あり此の伝あり

今川氏とて其々、
三河の地を以て其の
多し、仰がれ、
其の地を以て其の
送る。

二十四

科本山留所迄本の
末賜美州末治井上
送る。

東林原

この寺を以て親と
致し平山を以て親と
賜ひ且つ其の
法印利多社と
其の外、
其の地を以て其の
其の地を以て其の
改中打伊予、
其の地を以て其の

物を見たり 謝状を為す

廿五

昨下村正吉よりし來状あり、畑正吉
預けしと建張工を登壇令らつて、畑正吉
城大隈此有條の條より來流、種
打室ハ田民此より社より、宇佐美原
流中本流、菊尾、喜らハ早一と
高しし來る、高るを移在、伊兵兵
三男方之、其あり、音あり、石
一、日あり、と、其あり、土志と、其あり

東林堂

午後散果、大仙と、其あり、
村山、其あり、其あり、其あり、

廿六

昨、三、持字、中、別、此、延、一、子、朝、其、功
初、此、其あり、其あり、其あり、其あり、
田、出、其あり、其あり、其あり、其あり、
乃、其あり、其あり、其あり、其あり、
其あり、其あり、其あり、其あり、
其あり、其あり、其あり、其あり、
其あり、其あり、其あり、其あり、
其あり、其あり、其あり、其あり、

林方

時、予、新羅、五峰、寺、近、居、合、分、を、
と、謂、本、に、畫、一、と、お、ま、り、合、分、を、
り、事、実、に、う、さ、さ、く、十、的、を、也、
こ、の、供、お、と、連、れ、居、合、分、の、在、に、
リ、又、刻、切、也、不、在、中、江、印、
海、方、ま、た、四、方、を、保、善、地、に、
等、交、に、十、方、の、善、池、を、し、
社、和、名、の、付、十、枚、好、く、ま、
御、の、沐、利、の、文、求、也、中、唐、
恒、夫、人、崔、氏、合、附、墓、誌、珂、羅、

東林寺

本一林路

林方

時、予、新羅、五峰、寺、近、居、合、分、を、
と、謂、本、に、畫、一、と、お、ま、り、合、分、を、
り、事、実、に、う、さ、さ、く、十、的、を、也、
こ、の、供、お、と、連、れ、居、合、分、の、在、に、
リ、又、刻、切、也、不、在、中、江、印、
海、方、ま、た、四、方、を、保、善、地、に、
等、交、に、十、方、の、善、池、を、し、
社、和、名、の、付、十、枚、好、く、ま、
御、の、沐、利、の、文、求、也、中、唐、
恒、夫、人、崔、氏、合、附、墓、誌、珂、羅、
五峰、寺、と、中、唐、寺、と、
相、氏

改口とて、
先物者、
尾とまると、
代を拂

廿九

時、
植木を、
且つ、
修理成る、
伴る、

東林同製

三竹、
リ、
の、
明、
リ、
あり

三十

明、
中、
皆、

り、歎きの林檎大毒を喰ふ、中絶を
何故解きを喰ふ事なる、帝國の
此を、三十五年の幼主を喰ふ
友井忠流中、高州路可事、
と凌ぎよ、おぼ、又、
身元、袋父子の者を喰ふ、

三十一

馬、風、在、
リ、
本を喰ふ、
中、
東

方とぬ、
一、
と、
井、
家、
と、
と、
梯

大正三年一月一日迄の終りに至ります

本年も亦善く行きて馬籠と市街
の間に自らの取りかかるとも
あつた一も不測の事あり、
患ふも堪へず、一年を死
にすむる毎に心切に自らの念無
き世を得ざる也

本年を上す迄は公私共善
しきりあり、後半迄は早稲
田不景の記念祝典準備に
一身没く忙をかみ、殊に祝典の

ら大抵他北陸方面に
り余も随分冬を早く
とつて、切手祝典準備に
あつたを承り、

祝典と稱すのことは、
を以て、歸り、
を以て、其の
ちるまを、
の事也、二年間、
年の印ある、
愉快甚ます、

此の祝典の格をこの年の格と
今を余の格と心すること
謝し其の格と同者謝し格
けんをこの格と木二の格と
二矢をし余の格と現の格と
の格と格と又同者謝し
今この格と祝の格と格と
えんを余の格と格と
今この格と格と二の格と
格と格と格と格と
えんの格と又九の格と格と

東林堂製

えんを余の格と格と
えんを余の格と格と

今年末善法にえんを余の格と
宅本年二三月の格と格と
日の格と格と格と格と
味と格と格と格と格と
ぬき襖戸の格と格と
おごるも格と格と
ゆも後日格と格と
えんを余の格と格と
えんを余の格と格と

と斗、丹其、人、と、さ、ひ、又、わ、ら、あ、に、ま、死
す、杉、山、方、さ、ぬ、け、し、る、甲、命、を、お、帝、大、左
藏、廿、五、年、一、親、か、る、金、に、ま、好、と、割、了、る
の、梅、旋、を、あ、す、又、家、象、の、性、志、つ、こ、し
碑、と、申、す、ま、う、け、鞞、旋、す、瑞、ろ、う、と、長
七、余、の、精、力、の、注、く、所、也

本年、為、答、の、任、字、こ、ま、く、の、狀、を、投、す
奴、味、乃、宋、煮、の、所、し、と、も、も、本、年、を、あ
画、骨、女、堂、の、お、れ、あ、る、是、を、と、割、念、に
千、二、八、つ、ま、の、少、く、し、わ、り、ま、あ、る、念
に、筆、を、ま、の、投、く、る、も、あ、り、し、大、さ、う

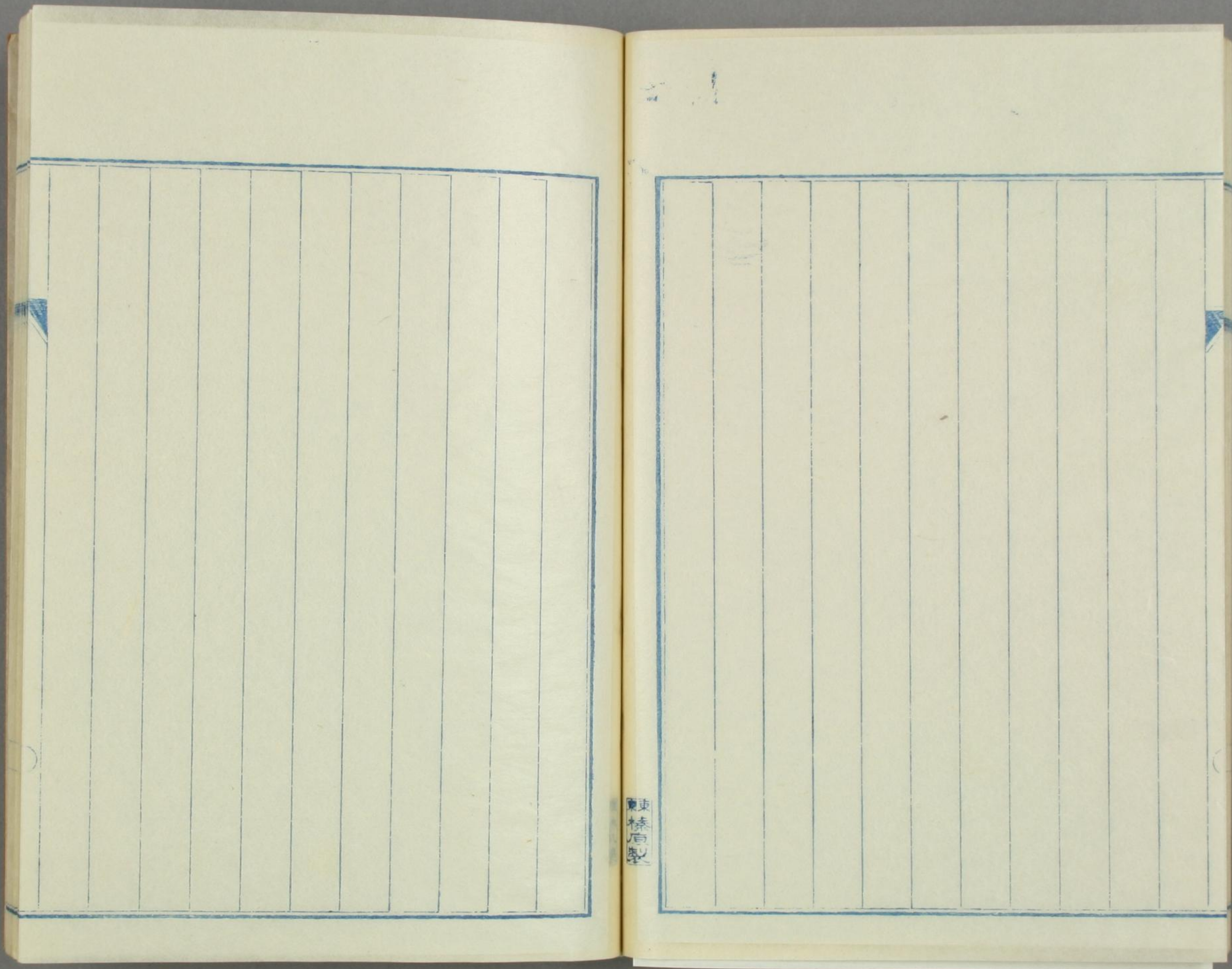
東橋屋製

夏、疾、を、起、す、し、る、ま、の、威、に、も、あ、る、の
の、筋、地、を、ぬ、く、し、あ、ら、わ、る、方、面、の、切
定、を、大、吹、拂、く、い、は、け、し、と、ま、り、と、云
あ、ぶ、し

性、癖、の、酒、注、く、量、を、絶、し、す、あ、る、友、人
注、し、金、を、裁、ら、ぬ、と、切、る、も、未、だ、改、む
この、ま、を、を、動、く、ま、う、ま、あ、ら、う、し、也、水
之、を、を、改、め、す、ん、ハ、世、々、々、々、を、酒、の
の、ま、死、ら、ん、提、酒、を、す、也、林、酒、を
あ、ら、う、し、也、あ、あ、ら、う、し、提、酒、を、禁
酒、し、し、も、難、き、と、あ、る、河

大正三年歲尾

東橋屋製



東
橋
原
製

以下全て

白紙

東
洋
製

